VOL.45



(平成24年10月1日発行) 福島県文化財センター白河館 〒961-0835 福島県白河市白坂一里段86 TEL 0248-21-0700(代) FAX 0248-21-1075 オームページ まほろん 検索



まほろんの夏休み体験活動

まほろんでは、県内小中学校の夏休み期間に併せて、7月18日(水)から8月26日(日)まで、『夏休み特別体験メニュー』として「弓矢・やり投げに挑戦しよう」「砂鉄選別」「バックヤードツアー」を実施しました。

「弓矢・やり投げに挑戦しよう」は縄文時代に使用された弓矢をパネルを用いて解説し、復元した弓矢とやりで、的に当てる体験活動です。例年人気のあるメニューで、お盆の帰省の際の楽しみにしている来館者もいるほどです。屋外の暑さも忘れて、何度も体験するお子さんも多くみられました。

「砂鉄選別」は 11 月 3 日(土)・4 日(日)に行われるまほろんイベント「古代の鉄づくり」の砂鉄採取と PR を兼ねて実施しました。「砂鉄選別」は近世に行われた「鉄穴流し」をモデルとし、樋の水流を利用し砂から砂鉄を採取する方法です。体験者は掌を流水に浸して、屋外の暑さをしばし忘れて涼しげな様子でした。このたび選別された砂鉄は、「古代の鉄づくり」で活用させていただきます。

「バックヤードツアー」は収蔵庫見学と遺跡から出土した本物の土器に触る体験で、7月 23 日 (月) \sim 29 日 (日)、8 月 13 日 (月) \sim 19 日 (日) の午前と午後の1回ずつ行いました。見学者の皆さんは、収蔵庫に入って広さや収蔵品の量を体感し、本物の土器に触れることで重さや手触りを実感しました。貴重な体験ができたとの感想を多くいただきました。

このほか火おこしや勾玉づくりなどの常時体験メニューも行い、子どもさんばかりでなく、多くの 大人の方々にも夏休み期間中の体験活動を楽しんでいただきました。

「古代の鉄づくり」のご案内

開催日: 平成 24 年 11 月 3 日 (土) • 4 日 (日)

11月3日(土)・4日(日)に「古代の鉄づくり」 を行います。現在、製鉄イベントに向けて、羽口や 炉づくりなど準備作業を行っているところです。 今回、まほろんでの鉄づくりは、第5回目となりま

すが、炉の規模は、150 cm×60 cmと前回の4号炉 と同じサイズです。

モデルとする製鉄炉は、原町火力発電所建設に伴 う発掘調査で発見された南相馬市長瀞遺跡の15号 炉で、T字型に配された踏みふいごや羽口も発見さ れた状況を参考にします。

1日目は朝9時30分から午後7時まで操業を行 い、2日目は朝10時頃から炉の解体を行い炉の中 にできた鉄を取り出す予定です。

体験学習

実技講座「カラムシから布をつくろう」

この講座は、まほろんで栽培するカラムシという 植物から繊維を取り出し、糸を紡いで、布に編み上 げるまでの過程を体験するもので、3回にわたる講 座に多くの方が参加しました。

第1回の6月30日(土)には、参加者が刈り取 ったカラムシの茎の表皮から繊維を取り出す「苧引 き」に挑戦。第2回の7月21日(土)には、その 繊維を紡いで糸をつくりました。

第3回の9月1日(土)には、布づくりに挑戦し ました。この講座の布づくりでは、毎年、アンギン 編みと呼ばれる技術を取り入れています。今回は、 越後地方(新潟県)に伝わる"越後アンギン"とい う緯糸を3本使う技法で、きめの細かいコースター を仕上げました。アンギン台の上でコモツチ(菰鎚) を結び付けた経糸と緯糸を交互に絡めていく作業は

根気のいるものです。

参加者は、古来からの 布づくりの大変さを実感 しながらも、衣服をつく る技術の大切さについて 学びました。



〈完成したコースター〉

まほろんでは、1日目の製鉄炉操業の際に炉内に 風を送る「ふいご」を踏んでくださる方(番子さん) を募集しています。皆様の参加を心よりお待ちして おります。



実技講座「古代の染色にちょうせん」

連日猛暑の中、8月4日(土)に開催しました。 今回は、平安時代の『延喜式』に記載される 縹色 を求めて、タデアイ(藍)の生葉染めを行いました。 当時の縹色は、藍で染められた色のことを指し、濃 い順に深縹・中縹・次縹・浅縹の4段階に分け られていました。このような、色を付けた藍染めは、 防虫効果や布を丈夫にすることから、古くから衣服 などに利用されていたようです。

講座では、初めに絹のスカーフにビー玉や輪ゴム などで模様付けを行いました。その後、参加者は、 まほろん古代の畑からタデアイを摘み取って染液を つくりました。絹布は、染液に浸したあと、日光に さらすことで緑色から青色に染まっていく様子がわ かりました。最後に、絹布を水洗いして完成です。

参加された皆さんは、それぞれの模様を付け、青 空に似たような縹色に染めあがった作品に満足して いました。





企画展示案内

ふくしま里帰り展

「ふくしま考古学研究の春 暁

-棚倉式土器の発見・新地貝塚の発掘-」

会期: 平成 24 年 10 月 6 日 (土) ~ 12 月 2 日 (日) 会場:まほろん特別展示室(入場無料)

ふくしま里帰り展は、県内の遺跡から出土した資 料で、県外機関等に所蔵されていて、普段見る機会 のない資料を、里帰りさせる企画です。

県外機関所蔵の資料の多くは、戦前の考古学研究

の黎明期に発見・調査され たものです。今回展示する、 東京大学総合研究博物館所 蔵の東白川郡棚倉町崖ノ上 遺跡の弥生土器は、明治 21年に東北地方で最初に 見つかった弥生土器で、後 に棚倉式と呼ばれ、古くか ら学会に知られることにな った資料です。また、この <崖/上遺跡出土 資料と併せて、県内機関所、東京大学総合研



蔵の棚倉式土器も展示します。ひょうたんの形をし た特徴的な土器や福島県指定重要文化財もあり、見 ごたえ十分です。

さらに、この棚倉式土器の発見やそれに関わった 人々の研究についても焦点をあてます。棚倉藩最後 の藩主、阿部正功が作成した崖ノ上遺跡の見取り図 や弥生土器の拓本(学習院大学史料館所蔵)、そして、 静岡県登呂遺跡や群馬県岩宿遺跡の調査等で著名 な杉原荘介が、昭和14年に崖ノ上遺跡を発掘した 際に出土した遺物や調査記録(明治大学博物館所蔵) などの貴重な資料を展示します。

また、大正13年に福島県が初めて主催し、東京 帝国大学(現:東京大学)に依頼して調査した相馬 郡新地町新地貝塚の出土遺物(縄文土器・角骨器・ 貝輪など) や近年再発見された当時の調査記録を展

示し、全国に先駆け て地元行政が主体的 に実施した調査成果 を明らかにします。

福島県の黎明期の 考古学を彩る貴重な 資料をご覧ください。



研修だより

教職員発掘調査体験研修

夏真っ盛りの8月1日(水)~3日(金)、当事 業団遺跡調査部の協力を得て、会津若松市西木流で 遺跡で「教職員発掘調査体験研修」を実施しました。 この研修は、発掘調査の実体験を通して教職員の方 に埋蔵文化財保護の意識を高めてもらう目的で、毎 年学校の夏休み期間に行っています。今回は、「調 査技術研修-遺構の調査-|を併せて実施したため、 いつにも増して活気のあるものとなりました。

研修会場の西木流C遺跡は、古代の会津郡役所跡 と推定される郡山遺跡と近接し、調査区からは古代 の流路跡が発見され、貴重な木製品や土器類が出土

しています。研修は、その一画をお借りして、どこ にどのような遺構があるのかを探る「遺構検出」と、 遺構に堆積した土を層位的に掘り下げていく「掘り 込み」を中心に行いました。

研修中は、毎日35度を超える真夏日でしたが、 水分補給をして暑さに耐え、発掘調査の難しさと面 白さを肌で感じてもらえたことが何よりの成果と言 えます。

また、最終日は会津若松市内の郡山遺跡、会津大 塚山古墳、一箕町文化センターの展示資料を見学し、 地域に残る文化財の重みを感じ取っていただきまし た。今回の貴重な体験を授業に生かしていただけれ ばと思います。





文化財研修のご案内

10~12月の研修

10~12月の文化財研修は、基礎講座研修1、専 門講座研修2の計3コースを予定しています。

10月10日(水)・11日(木)は、「文化財保護指 導者研修会」を実施します。県内各市町村の文化財 保護について指導的立場にある関係者の方々を対象 とした、文化財に関する専門的な研修です。福島県 教育委員会・猪苗代町教育委員会との共催で、猪苗 代町を会場として行われます。

12月8日(土)は、考古学と関連科学「年代測

定」を実施します。放射性炭素年代測定の原理、方 法、作業の概要をわかりやすく解説し、福島県内の 遺跡出土試料で実施した具体的な測定事例を紹介し ます。

12月22日(土)は、体験学習支援研修Ⅱ「土器 づくり」を実施します。焼成の必要がない、はにわ 粘土を用いたミニチュア土器づくりを学ぶ研修で す。子どもの創造性を育む格好のメニューとして、 指導者の方にお勧めです。

各文化財研修の詳細については、ホームページや 館内備え付けのポスター・チラシ等でお知らせしま す。みなさまの応募をお待ちしています。

シリーズ収蔵品紹介 14

まほろんの収蔵資料というと、原始・古代のもの という印象が強いでしょうが、実際には中世や近世、 さらには近現代の遺物も数多く存在します。そうし た新しい時期の収蔵資料の中から、今回紹介するの は、桜町遺跡(湯川村)出土のガラス瓶(『会津縦 貫北道路発掘調査5』172頁、図79-9)です。

本資料は、全長 15.5cm・幅 7.5cm・厚さ 3.5 cm ほどの透明なガラス製の瓶で、首部に「DAIKOKU BUDOUSHU」、胴部にブドウの蔓を思わせるエンボス が施され、アルミ製のキャップが付属しています。

「DAIKOKU BUDOUSHU」(大黒葡萄酒) とは昭和9年 (1934) 創業の酒造会社で、創業以来のワイン醸造

のほか、第二次世界大戦後 にはウィスキー分野にも 進出しました。昭和14年 (1939) には、白河町 (現・ 白河市) に工場を建設して います (昭和22年売却)。

本資料は、瓶の形状や キャップに印刷された帆船 マークから、同社が昭和 21年(1946)に生産・販売 を始めたオーシャンウィス



〈桜町遺跡出土のガラス瓶〉

キーのポケット瓶と考え られます。一般的にウィ スキーの瓶には独特の形 状をしたものが多いので すが、これは瓶自体が伝 統的にトレードマークと しての役割を有している ためで、日本でもサント〈アルミキャップの帆船マーク〉



リーの角瓶ボトル申請を機に立体商標として認めら れるようになりました(平成15年)。今後は、各メー カーで、ボトル瓶の保存が図られていくことと思わ れます。

ただ、オーシャンウィスキーに関しては、製造元 の大黒葡萄酒がすでに消滅(昭和37年に三楽酒造 に吸収。現・メルシャン)し、またブランドを引き 継いだキリンビールもペットボトル入りの在庫品を 販売しているにすぎず、積極的な保存・活用は望み にくい状況です。そうした中で、本資料が大黒葡萄 酒ゆかりの白河の地で保存されていることの意味は 小さくないと言えるでしょう。

ウィスキーの国産化は日本産業にとって重要な課 題でしたが、その歴史を語る際に大黒葡萄酒が取り あげられることは多くありません。本資料を手がか りとして、その見直しにも取り組んでみたいと考え ています。 (主任学芸員 山田英明)

まほろんからのお知らせ

獣脚ろうそくがつくれます

10月23日(火)から11月4日(日) まで、体験活動室で獣脚ろうそくづく りが体験できます。材料費は200円。

鋳型にろうを流し込んでつくりま す。お好みの色のろうそくがつくれま す。ぜひ体験してください。



ご利用案内

開館時間 9:30~17:00 (入館は16:30まで)

月曜日(月曜日が祝日・休日の場合はその翌日)、 休館日 国民の祝日の翌日(土曜日・日曜日にあたる場 合は開館)、年末年始(12月28日~1月4日) ただしGW・夏休み期間中の月曜日は開館

入館料 無料(体験学習によっては、材料費が必要な場 合があります。)

その他 団体(20名以上)でご利用の場合は,事前に ご予約ください。